

板橋区の産業 温故知新「板橋区工業のあゆみ」

出典：「産業記念物保存状況調査報告書」H4
 「板橋区史」H11
 「板橋区工業五十年のあゆみ」S57
 「板橋区工業集積地域活性化計画検討調査報告書」H9

西暦	時代	社会の動き	板橋区の工業の変遷	工場数	行政など
江戸			板橋区の工業の発祥 (幕末) 幕臣、沢太郎左衛門、オランダから火薬製造機を搬入		
明治	明治維新		明治4年 火薬製造機を政府(兵部省)に引き渡す 明治9年 加賀下屋敷跡に陸軍砲兵本廠板橋属廠完成 ← 石神井川の水車利用		
大正			明治12年 東京砲兵本廠板橋火薬製造所に改称	大正初 約30	大正3年 東武東上線池袋～川越間開通
1914		第一次世界大戦勃発	火薬の需要増により、民間での火薬製造を許可 大正7年 東京瓦斯志村火薬工場(志村) 大日本セルロイド(小豆沢)など		
1923		関東大震災	大正14年 帝都復興計画 板橋区志村地区、甲種特別地区に指定される。 ・当時工業地域で都心から最も遠隔 ・衛生上有害な業種が集まる(危険物取り扱い/化学)		
昭和			区の代表的な工業として発展		
1929		世界大恐慌			
1933		国際連盟脱退	震災復興と軍需による工業集積 昭和4年 金門商会 昭和5年 オリエンタル酵母 昭和7年 東京光学機械 昭和8年 大木伸銅 昭和10年 青木メタル 昭和11年 日本特殊鋼管 昭和12年 日本マグネシウム 高砂鐵工 凸版印刷、など	昭和7 90	昭和7年 板橋区誕生
1939		第二次世界大戦勃発	軍需産業の拡大 第一陸軍造兵廠 東京工廠 (鉄砲用双眼鏡・大砲用測遠鏡等の光学兵器) 東京板橋陸軍第二造兵廠 (火薬の製造・研究)	昭和10 274	
1941		太平洋戦争開戦		昭和15 1980	
1945		終戦	(解体) (敗戦による事業縮小)		
1950		朝鮮戦争・特需	平和産業への転換 技術を持つ工員や下請工場の独立による町工場の叢生 戦災が比較的小さく立ち直りが早かった	昭和24 633	昭和21年 板橋産業協議会発足 (のちに合併により産業連合会)
1964		高度経済成長 東京オリンピック	光学・精密機器の隆盛 各工程を担う工場が隣接しているメリット 昭和37、38年には国内光学機器の70% 板橋区の地場産業としての地位を固める	昭和30 920	昭和24年 第1回板橋区産業奨励生産品展示会 実施(年1回実施) 産業見本市の起源
1972		円、変動相場制へ移行	工場の急増 印刷・出版業の発展 (都心から移転・中仙道・首都高のつながり)	昭和35 947	昭和25年 板橋産業連合会発足
1973		第一次オイルショック	工場の急増と宅地化による環境問題の表面化	昭和40 2348	昭和28年 区、中小企業への融資あっせん事業
1985		プラザ合意(円高の加速)	印刷産業展開催	昭和45 4537	昭和43年 都営地下鉄6号線(三田線)開通
1990	平成	バブル崩壊	工場の減少 長引く不況 立地制限(工業等制限法) 後継者問題	昭和50 5231	昭和47年 板橋区民まつりの中で「工業展」を実施
1991		湾岸戦争	印刷産業展開催	昭和55 5085	昭和52年 板橋区中小企業振興公社設立 区独自の信用保証業務を実施
1997		金融危機	情報技術の進展・活字離れ	昭和60 4715	昭和57年 印刷産業展開催(区制50周年記念事業) 昭和61年 分譲型工場団地(ブリティングプラザ)竣工
2001		同時多発テロ	IT(情報技術)、健康・医療・福祉等、新分野・新産業への期待	平成2 3964	平成3年 分譲型工場団地(トレテックス)竣工
2003		イラク戦争	現在でも23区トップのシェア 現在でも区内最大業種	平成6 3296	平成6年 生活産業融合型工場ビル(賃貸)開設
				平成7 3296	平成9年 第1回いたばし産業見本市開催
				平成12 2952	平成10年 第1回板橋経営品質賞授賞式開催
				平成15 2534	平成14年 創業支援施設「企業活性化センター」開設 平成17年 板橋区産業活性化基本条例施行